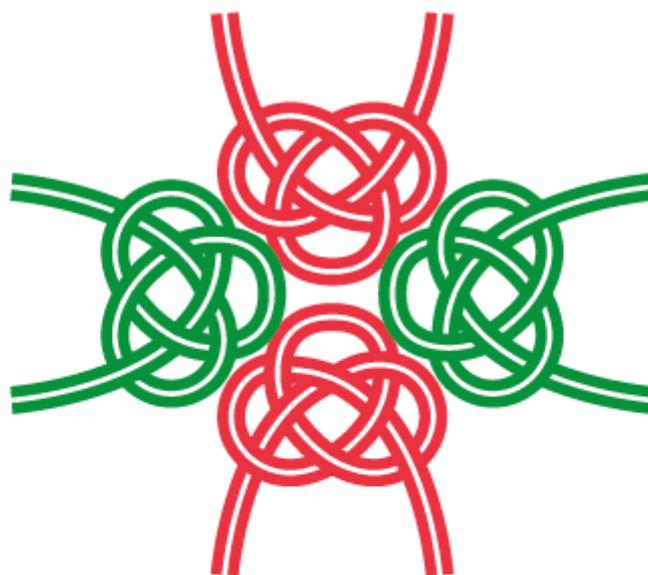


Sustainable Recovery Tokyo Forum
サステナブル・リカバリー東京会議



Sustainable Recovery
Tokyo Forum
Re StaRT

報告書

令和3年8月7日
東京都

目次

会議開催概要	2
プログラム	3
議事録	
1 会議概要説明、知事開会挨拶、登壇者紹介	4
2 登壇者発表 第1部【環境・文化に関する理念や取組姿勢】	6
3 登壇者発表 第2部【具体的取組に関するディスカッション】	12
4 全体総括、知事による締めくくり、『東京宣言』の発表	19
「サステナブル・リカバリー東京宣言」全文	21
記念撮影	22
会議当日の様子	23

会議開催概要

1 名称

Sustainable Recovery Tokyo Forum (サステナブル・リカバリー東京会議)

2 日程

令和3年8月7日(土) 13:00~14:00

3 目的

東京都は、気候危機への対処を図りながら新型コロナウイルスからの経済復興を目指すという世界の潮流を、環境だけでなく、人々の持続可能な生活を実現する観点にまで広げた「サステナブル・リカバリー(持続可能な回復)」を進めている。

都は、この「サステナブル・リカバリー」の実現を世界に提唱するため、「Sustainable Recovery Tokyo Forum」(サステナブル・リカバリー東京会議、略称: Re StaRT)を開催した。会議は、環境・文化の分野を切り口とした内容で意見交換を行い、その成果として共同宣言を採択した。

4 会場

東京都庁 第一本庁舎 7階ホール

5 主催

東京都

6 当日登壇者 ※下線はオンライン参加

アンヌ・イダルゴ(パリ市長)

エリック・ガルセッティ(ロサンゼルス市長)

エイドリアン・シュリナー(ブリスベン市長)

ソハム・エル・ワルディーニ(ダカール市長) ※ビデオメッセージ

ピーター・タン・ハイ・チュアン(駐日シンガポール共和国特命全権大使)

小池百合子(東京都知事)

石井菜穂子(東京大学理事、グローバル・コモンズ・センター ディレクター)

7 プレス

公開 ※オンライン配信あり

8 言語

英語(日英同時通訳あり)

プログラム

時間	プログラム
13:00	開会：動画放映 モデレーターからタイトルコール、会議概要説明
13:03	知事開会挨拶、登壇者紹介
13:06	登壇者発表 第1部 【環境・文化に関する理念や取組姿勢】
13:28	登壇者発表 第2部 【具体的取組に関するディスカッション】
13:48	全体総括（モデレーターによるまとめ）
13:52	知事による締めくくり、『東京宣言』の発表
13:57	モデレーターからクロージングコール
13:57	写真撮影
14:00	閉会

議事録

<会議概要説明>

(モデレーター・石井氏)



おはようございます、こんにちは、こんばんは。
 本日はサステナブル・リカバリー東京会議、Re StaRT、東京都が主催するこの会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。私は石井と申します。本日はディスカッションのモデレーションをさせていただきます。

今、世界中がコロナ禍からの経済回復のために努力をしているところです。同時に気候変動危機に対処しようとしています。二重の危機があるわけですが、東京都は都知事のリーダーシップのもと、さらに高みを達成しようとしています。

東京はサステナブル・リカバリーを実現しようとしています。コロナ禍からの経済回復をしようというだけでなく、気候変動危機にも対処しようということ、そして環境に加え、人々がサステナブルな生活を実現するという視点も含まれております。

本日は地域、措置あるいはアイデア、サステナブルなリカバリーを各都市において促進するための措置や考え方をスピーカーの方々にお話いただきます。サステナブル・リカバリーを実現するために未来の社会、人々が人生のあらゆる局面で輝けるような未来の社会を目指してという見方でお話いただきます。まずは小池都知事から開会の挨拶をお願いいたします。

<知事開会挨拶、登壇者紹介>

(小池都知事)



皆さん、こんにちは。東京都知事の小池百合子です。「Sustainable Recovery Tokyo Forum」、略称 Re StaRT にご参加いただき感謝申し上げます。

早いもので、東京 2020 オリンピック競技大会ももう終盤。明日一日を残すのみとなりました。大会のビジョンである「多様性と調和」のもと、200 を超える国と地域、難民選手団など、世界中の様々なバックグラウンドを持つアスリート達が全身全霊で競技に取り組む姿を見て、多くの人々が感動を覚えられたのではないのでしょうか。まさに、スポーツの力で世界の連帯感、一体感が醸成されたものと思います。

感染防止を図りながら、人と人がつながる場をつくり出す。芸術、文化、スポーツ活動を続けられる環境を整える。コロナからの復興にあたっては、気候危機に対応しながら経済復興を目指すということが世界の潮流ですが、東京都では、環境だけでなく人々の持続可能な生活を実現する観点にまで広げた「サステナブル・リカバリー」を進めています。

コロナの前にただ戻るだけでなく、世界の皆様との連携のもと、「サステナブル・リカバリー」を進めて、より良い未来を創り上げてまいります。

本日は、こうした観点から、大会の五輪が象徴する五大陸の皆様と意見交換したいと存じます。

ヨーロッパ大陸からは 2024 年オリンピック・パラリンピック開催都市であり、閉会式に合わせて来日された、パリのアンヌ・イダルゴ市長。

アメリカ大陸からは 2028 年開催都市であり C40 議長も務められているロサンゼルスのエリック・ガルセッティ市長。

オセアニア大陸からは 2032 年開催都市に決定したブリスベンのエイドリアン・シュリナー市長。

ビデオメッセージではございますがアフリカ大陸からは 2026 年ユースオリンピック開催都市であるダカールのソハム・エル・ワルディーニ市長。

また、海外と日本国内の両面からの視点をお持ちであるシンガポール共和国のピーター・タン・ハイ・チュアン駐日大使にもご参加いただいております。

皆様と、「サステナブル・リカバリー」に向けた行動について発信できることを楽しみにしております。



(アンヌ・イダルゴ市長)



(エリック・ガルセッティ市長)



(エイドリアン・シュリナー市長)



(ピーター・タン・ハイ・チュアン大使)

(モデレーター・石井氏)

小池都知事、ありがとうございました。

<第1部 環境・文化に関する理念や取組姿勢>

(モデレーター・石井氏)

それではディスカッションに進みたいと思います。本日のディスカッションの前半におきましては、各スピーカーの方々から環境に対してのアプローチ、そしてサステナブル・リカバリーに資する環境・文化に関する理念・取組姿勢ということでお話いただきます。

まずは東京都知事である小池さんから東京がどのような形で取り組んでいるのかということをお聞かせいただきます。

(小池都知事)

世界は今、コロナ禍と気候危機という2つの大きな危機に直面しており、これに立ち向かうには、最前線に立つ私たち都市の行動が非常に重要です。

東京都は、気候危機に対応しながら経済復興を目指すという世界の潮流を、環境だけでなく、未来に向けて人々の持続可能な生活を実現することを目指す「サステナブル・リカバリー」の取組を進めています。



U20 メイヤーズサミット、皆さま覚えているでしょうか、また世界経済フォーラムのダボス・アジェンダでは、気候変動対策について、東京都は日本の首都であり、世界の大都市の責務として、世界共通の目標となっている2050年のゼロエミッション実現を目指すとともに、今年1月、2030年までに温室効果ガスを2000年比で半減する、カーボンハーフを表明しました。

私は、C40 副議長としてアジアを代表しておりますが、Climate Action の展開を進めるとともに、U20 メイヤーズサミットや世界経済フォーラム・ダボスアジェンダ等でも世界に働きかけてきました。また、今年4月には、バイデン大統領主催の気候リーダーズサミットのセッションに、気候危機対応の最前線に立つ都市の首長として、メッセージを送りました。

都市のCO2排出量の多くは、建物に由来するため、都は世界に先駆けて2010年からオフィスビルをも対象とする都市型キャップ&トレード制度を運用し、2019年度には基準排出量比で27%もの大幅削減を達成しました。このノウハウは、ニューヨーク市にも提供しております。



今こそ、行動するとき。「TIME TO ACT」を合言葉に、気候危機に立ち向かう世界的ムーブメントを展開していきます。

さて、開催中の2020大会は、スポーツはもとより、文化の祭典でもあります。



芸術文化は、東京の都市としての魅力を形成する要素であるだけでなく、コロナ禍にあって様々な状況に置かれる人々を支え、感動や喜びをもたらすものです。

東京都は、大会の開催に向けて文化の面から盛り上げるため、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打って、様々な文化プログラムを展開してきました。

コロナの影響により、多くの文化プログラムは延期と企画の変更を余儀なくされましたが、感染対策を十分に講じながらの開催やオンライン配信の活用など、様々な工夫を凝らして実施をしています。



また、活動を自粛せざるを得ないアーティスト等を支援するため、制作した動画作品を Web 上で配信する「アートにエールを！東京プロジェクト」を実施するなど、東京の魅力の源泉である文化の灯を絶やさない取組も展開しています。

このように、コロナ禍においても、人々のマインドを回復させながら、未来に向けた復興を目指す取組を展開していきます。

(モデレーター・石井氏)

ありがとうございます。次にパリ市長のイダルゴ市長にメッセージをいただきたいと思います。イダルゴ市長お願いします。

(イダルゴ・パリ市長)



ありがとうございます。

まず、私の方から小池都知事にこの機会にお招きいただいたこと、またサステナブル・リカバリーにおけるリーダーシップ、そしてオリンピックを主催いただいたことに感謝いたします。本当に素晴らしいイベントとなっております。コロナ禍において、このようなオリンピックを主催されて素晴らしいことであると思っております。パリとしても素晴らしい前例となっております。

エリックさん、ブリスベン、ダカールの市長、そしてシンガポール大使、お会いできて嬉しいです。今日は我々の社会に影響を与えている重要な問題について意見を述べさせていただく機会をいただきありがとうございます。

極端な気候事象が我々の生活に影響を与えています。熱波もそうです。気候への対応は2日後に発行される第6回 IPCC レポートの中でも触れられ、メッセージが含まれています。それはつまり気温上昇を1.5℃以内に留めることが必要であるということです。今の取組は時間との戦いです。このトレンドを反転させるためには、我々がグローバルに協力をし、また地域レベルでも協力をし、経済モデルを変革させていく、そして生活様式を変えていかないといけないと書いてあります。都市がこのサステナブル・リカバリーにおいて役割を果たし、エコロジカルな観点で対応していく必要があると考えています。

ここで私が考えるサステナブルの3つの意味について触れたいと思います。私が考える3つの意味というのは、まずはグリーン、環境に優しいということです。このメッセージは私がずっと話しているメッセージです。他のヨーロッパの首長の方々とも話をしていますが、回復におきましては、エコロジカルへの移行において主導的立場である金融部門から始めていかなければなりません。COP21 においてパリ宣言が発出されましたが、あらゆる大陸の首長の方々々が参画し、サポートいただきました。カーボンニュートラルを目指していくわけであり、300以上の都市でそれを達成していくわけですが、その目標に向けまして COP26 の場合は、現在の取組を推し進め、温暖化ガスの排出の削減に取り組んでいくことが必要です。そういった文脈からこういった関連のセクターにサポートを提供し、フェアな形でこの環境に優しい回復を達成していくことが必要です。環境危機というのは最も弱い立場の人たちに影響を与えているという事実を認識する必要があります。そういったことから刺激策を講じるに当たっては、このような不平等を解消しながら、社会的な不正義を解消し民主主義への脅威を取り去っていくという形で取り組んでいく必要があります。3つ目の

意味というのは、社会的・文化的な意味であります。1つ目がグリーン、2つ目がフェア、3つ目がソーシャル・カルチャーであると考えています。

我々はスポーツ等を通じまして、お互いと繋がっていく必要があります。また、社会的な多様性を可能にするものが文化とスポーツであります。3つのR（リデュース・リユース・リサイクル）を使って、あらゆる部門で、スポーツ・文化も通じて取り組んでいく必要があります。2024年のパリ大会が予定されていますが、パリ大会におきましてはカーボン・エミッションの完全なオフセットを達成し、プラスチックの利用を禁止しようと考えています。

（モデレーター・石井氏）

イダルゴ市長、ありがとうございます。次にロサンゼルスのエリック・ガルセッティ市長、C40の議長でもあります。ガルセッティさん、お願いします。

（ガルセッティ・ロサンゼルス市長）



石井先生、ありがとうございます。小池都知事、リーダーシップそして励まし、日本の方々、私たちに感動を与えてくださりまして、ありがとうございます。そして今日の会議を開催していただきましてありがとうございます。参加できて大変嬉しく思います。ロサンゼルスの前に大会を持たれ、私の親愛なる友人で C40 の前任（前議長）であるアンヌ・イダルゴさん、新たに開催都市となったシュリナー市長、それからワルディーニ市長。5つのオリンピックの開催都市となっている市長の方々、それからピーター・タン大使。

テレビでも東京の大会を見させていただいています。

オリンピックですけれども、どのようにこの違いをまとめていくのか、そして力にしていくのかということを考えていきます。人間の力、人間の体の可能性についても見せてくれています。この祝典によって、文化的にそして地域的にも一つになっていくということです。

またこの大会によって、私たちが今直面している最大の危機、それから気候変動危機、パンデミック、この2つの危機ですけれども、このような状況の中で私たちがローカルな参加、あるいは国際的なゴールを達成していくということ、それはウイルスであれ排出ガスであれ、私たちは一緒に行っていかなければ対処してことはできません。私たちが力を合わせていくことによって、この先10年間というのはアクションをとらなければいけない期間、気候変動に対して環境に対してまだ遅くないというところで努力していかなければいけません。

小池都知事がおっしゃったように、またイダルゴ市長が実行しているように私たちはより良い経済と共により良いエコロジーも達成していかなければなりません。国立再生可能エネルギー研究所におけるスーパーコンピューターを使った長年の研究を通じ、我々の地球にとって良いことは、我々とロサンゼルスとを共有することにとっても良いことであるに違いありません。LA100 と呼ばれるこの研究において、再生可能エネルギー100%は可能であるだけでなく、達成可能であり、安定しており、安価であり、手の届くところにあることを示しました。

そして市としても、私たちの都市部において公正さ、ジェンダー平等性なども推進していきます。そして今回の市長の方たちも仰っていることですけれども、これから先、変革を進めていくこと、700もの世界の都市が少なくとも各大陸1千以上の都市、大小関わらずゴールに向けて進めていく2030年までと2050年までに排出ガスを減らしていく「Race to Zero」にコミットしています。ですので、皆さんと一緒にこのようなことを進めていけるということを大変嬉しく思います。

また、この大会におきまして、示していただいたことはこうしたことを一緒にやっていくことで可能であるということ、選手たちを見ていてもわかりますが、コーチやファミリー、皆、共通の目的

に努力していくことでサステナブルなゴールに向けて進んでいくことができるということです。私
たちもフィニッシュラインに向けて進んでいかなければなりません。

(モデレーター・石井氏)

ありがとうございます。次にシュリナー・ブリスベン市長です。よろしくお願いいたします。

(シュリナー・ブリスベン市長)



ありがとうございます。東京都に感謝します。小池都知事、本当にありがとうございます。

二週間前に、私は東京にいて開会式を見ることができました。その場で個人的にお会いすることはできませんでしたが、オーストラリアのファンの方々の盛り上がりを感じることができました。この厳しい時期にオリンピックを取りまとめられたということは素晴らしいことだと思っています。大きな課題だったと思います。

素晴らしい形で東京都として、都知事として対応された素晴らしいことだと思っています。他の市長のコメントを繰り返すことになりませんが、本当にインスピレーションをいただきました。

都市のリーダーとして我々は今、地域社会における前向きな変革を引き起こそうとしています。我々はもう何年もフォーカスしていたことでありますけれども、最終的な変化の最終形というのは人の様式、人の行動を変えるということです。組織のやり方また家庭、そして個人個人の生活様式・行動様式を変えていく必要があります。

パンデミックが終わった際には様々なその習慣の変化が生まれると思います。変化というのは課題ではありますが、機会でもあります。数十年かけて変えてきたことを、一夜にして変えていかなければいけないわけです。

このコロナ禍におきましては、急速な変革が可能なわけです。そのためには協力して、その諸習慣や行動様式を変えて、環境のため、経済のために変革を成し遂げていく必要があります。

都市、州政府、そして政府それぞれが役割を果たしていくわけですが、その中でも都市としても変革、そして行動様式の変革を促進していく必要があります。健全な都市・健全な経済、そして綺麗で環境に優しい必要があります。また健全な文化と芸術、そして文化の多様性、複数の文化を包摂するという、それを達成する機会が今このコロナ禍において、私たちは手に入れようとしています。ですので、社会的なつながりそして様々なやり方で、人々、家庭、政府の行動様式を変えていく、そのような重要な機会が目の前にあります。

将来、2032年のオリンピック主催都市としまして、我々の都市の、地域としての変革の機会を手に入れたいと思っています。そのために、皆様と協力していきたいと思っています。東京の組織委員会の方々からも非常に参考になるお話をいただきました。この素晴らしいフォーラムにお招きいただきまして、ありがとうございます。将来に向けた前向きな変革を一緒に成し遂げていきたいと思っています。

(モデレーター・石井氏)

シュリナー市長ありがとうございました。次は駐日シンガポール大使のピーター・タン大使、お願いします。

(タン・駐日シンガポール共和国大使)



小池都知事、石井先生、イダルゴ市長、ガルセッティ市長、シュリナー市長、ワルディーニ市長、こんにちは。

まず、小池都知事に対しこの会議に参加させていただきましてありがとうございます

こちらで皆さんとご一緒できることを大変嬉しく思います。この会議はサステナブル・リカバリーに焦点を当てるということで大変タイムリーだと思います。現在、私たちは気候変動とコロナ禍

で二重の脅威に直面しています。

シンガポールにとってサステナビリティと開発というのは常に一対のものです。サステナビリティは常にシンガポールの DNA の一部であります。このような言葉が広く使われる前から、シンガポールは常にサステナブルな開発を経済成長と環境を守るという両方のバランスを取る形で進めてきました。1967年、独立後わずか2年で私たちはガーデンシティのビジョンを掲げました。そして1971年には Clean Air ACT を行いました。シンガポールは1980年代に河川を綺麗にするという大きな仕事に取り組みました。また最近では、ABC ウォータープログラム、アクティブ・ビューティフル・クリーンなウォーターということで、水のインフラストラクチャーを排水・貯水を越えた潜在的な機能を実現したいと考えています。

今年の初めシンガポールは「グリーンプラン 2030」を発表しました。これは数十年のイニシアチブに加えられるものでして、シンガポールが緑の住み続けられるふるさととして、存在し続けることを確保するためです。シンガポールのサステナビリティは成長エンジンに位置付けられます。私の方からグリーンプランについて少し話させていただきます。これは5つの省庁がリードし計画を立てて、次の10年のターゲットを設定しています。これは私たちのネットゼロエミッションをできるだけ早く達成したいとしています。グリーンプランは2030年のアジェンダとサステナブル・ディベロップメントのゴールに対してのコミットメントを強化するものです。また食料安全保障、サステナブルな水管理、グリーンエネルギーの転換を拡大し、サステナブルな経済成長を促し、インフラ産業をグリーン化し、私たちの都市のリソースを効率化し、気候に対し強靱な耐性を持たせるようにします。こうした具体的なグリーンプランについて、もう少し後で話させていただきたいと思います。

小池都知事から文化について、そして東京都がどのような形でコロナ禍において文化と芸術を支援しているかということをおっしゃいました。ですので、私たちもこの機会を通じて小池知事に感謝を申し上げるとともに東京都のスタッフ、そして東京2020大会を開催していただいたことに感謝申し上げたいと思います。このような状況の中で大変なことだったと思いますが、日本政府が安全で安心な大会を行うという素晴らしいご尽力をさせていただいたことに感謝申し上げます。

私たちの大会の役割の一つとしてありますのが、世界中の人々が交流をしてお互いに学びあって様々な文化について学ぶということです。日本は大会を主催することで日本の文化を世界中の国々とシェアし、皆様の強靱性、おもてなしというのがパンデミックにもかかわらず、というよりもコロナ禍ゆえに伝わってきました。いつも見ている通常の大会ではなかったですが、日本は世界に対して贈り物を届けて下さいました。そして選手たちは、世界が一番必要としている時に私たちの精神を感動させて高めてくれました。文化をシェアして下さった日本に感謝し、多くのことをこれからも日本から学びたいと思います。

(モデレーター・石井氏)

大使ありがとうございます。それでは次にダカール市長のワルディーニ市長からのビデオメッセージをいただいています。

(ワルディーニ・ダカール市長)



東京都知事、市長の皆様、ゲストの皆様、今回はコロナからの復興に関するバーチャル会議に参加でき、大変嬉しく思います。まず最初に、東京都には地方自治体を勢いづかせる本会議にご招待いただいたことに対して感謝いたします。

私たちの社会、世界は変化しました。特にコロナ禍が続くことで、我々の強みや弱みが明らかになり、我々の団結心や結びつきの強さ、時には弱さが露呈しました。我々の市民は物理的にも心

理的にも影響を受けています。我々の都市は課題に直面し、州政府は揺さぶられ、経済は不安定化しました。我々全員が変化し、我々の都市もその変化を経験してきました。とはいえ、今の厳しい環境においても我々は基本に忠実である必要があります。物事の優先順位を再確認し、我々の価値観を強化する必要があります。それを土台とした回復が極めて重要であり、不可欠であります。この世界的な健康上の危機には人の移動を大陸から大陸へ移動することを制約しながらも、国境を越えたバーチャルでの会話を促進し、我々の距離感を縮めたという逆説的な側面があります。

皆様、コロナ禍は私たちに市長としての私たちの役割、社会における自治体政府の役割、すなわち社会的な絆を築き、必需品を提供し予防のためにコミュニティのダイナミクスを強化するということを再認識させてくれました。このコロナ禍は私たちがアクションを強化することの重要性を示してくれました。これは基本的なコミュニティにおいて意識向上のキャンペーンを通じた予防、若年層の雇用プログラムを通じた若年層の雇用、ダカール市のクリーンプログラムを通じた環境、そしてサステナブルな開発、生活環境の改善、そしてダカール市の気候及びエネルギー計画、文化的な施策を支援するためのファンドによる文化に関する施策の支援、女性のサポート、危機に瀕する子供たちの保護などです。

皆様、東京都に対し、この重要な会合を行っていただいたことを今一度お礼申し上げたいと思います。ダカール市は私を通じて、協力を続けていく強い意志を再度表明いたします。

(モデレーター・石井氏)

ありがとうございます。ビジョンを共有いただき、また、サステナブル・リカバリーについてのアプローチを共有いただきましてありがとうございます。

お話されましたように、環境そして文化の側面が必要でありまして、それがあつて回復は本当の意味でサステナブルになるということです。このディスカッションを通じまして、皆さんのビジョンによって、多様なインクルーシブな活動を進めていってやるといふこと、これがサステナブル・リカバリーをより強靱なもの、そして明るい未来に進めてくれるものと思います。

<第2部 具体的取組に関するディスカッション>

(モデレーター・石井氏)



第2部ですが、具体的な措置について、サステナブル・リカバリーを達成するための手法についてお話を伺いたと思います。

まず、小池都知事からどのような取組を今促進されているのか、どのような具体的な措置を実施しているのか、お話いただきたいと思います。東京2020大会における取組についてご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

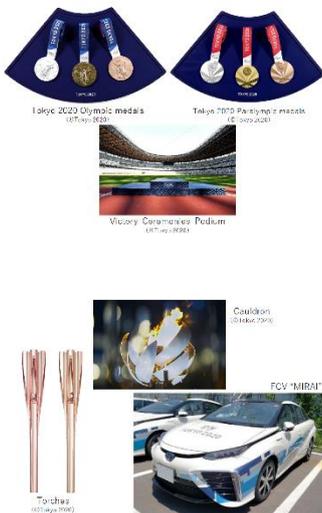
(小池都知事)

石井さんありがとうございます。こちらはオンラインのリアルタイムの会議ですが、ここで臨時ニュースがあります。先ほど男子バスケットボールの決勝が終わりました。アメリカが勝者となりました。ガルセッティ市長おめでとうありがとうございます。そして銀メダルがフランスです。おめでとうございます。

サステナブル・リカバリーの具体的な措置についてですが、私が施策を進めるにあたって重要だと考えることは、行政だけでなく、都民や企業・団体など様々な主体が一丸となって挑戦していくこと、すなわち共感と協働により、共に行動していくことであります。

こうした考えのもと、2020大会についても環境に配慮した持続可能な大会となるよう、新たな取組をしています。

都はキャップ&トレード制度の対象事業者等から提供されたクレジットで、開会式・閉会式の合計4日間の都内全てのCO2排出量を実質ゼロとする大会史上初の取組を実施しています。



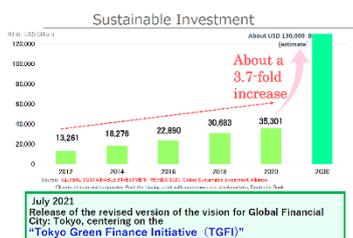
入賞メダルについては、使用済み携帯電話などの「都市鉱山」から抽出したリサイクル金属で5千個のメダルを製作するプロジェクトも実施しました。以前、イダルゴ市長、ガルセッティ市長から寄贈いただいた携帯電話も、メダルとなり、いま、熱戦を制したアスリートの栄誉の証となっていることでしょう。改めて感謝申し上げます。また、表彰台は使用済プラスチックから製作しています。

大会の選手村の施設や聖火リレーのトーチ、聖火台では、再生可能エネルギーを用いて製造された水素燃料を一部活用しています。

また、大会運営用車両として水素で走る燃料電池自動車「MIRAI」が475台使われています。今後は、大会のレガシーとして、東京都や区市町村、企業等の業務用車両としても有効活用していく予定です。

また、金融面からの環境への取組、グリーン・ファイナンスの発展も重要です。世界のサステナブル投資額は、順調に拡大してきており、2030年には2020年比で約3.7倍まで増加すると推計されています。

それを踏まえ、東京都では、今年7月に、東京のグリーン・ファイナンス発展に向けた戦略的な取組である「Tokyo Green Finance Initiative (TGFI)」を核とする「国際金融都市・東京」構想改訂



案を発表しました。

多様な主体が総力を結集して気候危機に立ち向かう行動の大きな呼び水となるグリーン・ファイナンス。投資資金が環境対策に活用される流れを加速させ、グリーン・ファイナンスの活性化を強力に推進していきます。

東京都では、文化においても「サステナブル・リカバリー」を実現し、コロナ禍を乗り越えて東京のしなやかで創造的な文化を発信しています。

先ほど述べた「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核を彩る事業として、国内外から応募のあった約 2400 件から選定した 13 の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」と総称し展開しておりますので、いくつかご紹介いたします。



まずは、「パビリオン・トウキョウ 2021」です。世界各地で活躍する日本人建築家とアーティストが、2020 大会のメイン競技場を中心として独自のパビリオンを設計し、新しい都市のランドスケープを提案しています。



次に、「東京大壁画」です。東京駅の正面に並び立つ 2 棟の高層ビルをキャンパスに見立て、巨大壁画アート 2 作品を展示しました。私も実際に見ましたが、ダイナミックなスケールで描かれた素晴らしい作品でした。

さらに、文化の灯を絶やさない取組として実施している「アートにエールを！東京プロジェクト」では、2 万人を超える方の動画作品約 8 千本を You Tube で公開しています。

東京都では、大会に向けて進めてきたハード・ソフト両面に渡る多面的な取組を、都市のレガシーとして発展させていきます。今こそ、行動を起こすべき時です。「サステナブル・リカバリー」を、あらゆる分野で進め、皆でコロナからの再始動を力強く進めてまいりましょう。

(モデレーター・石井氏)

小池都知事ありがとうございました。とてもクリアなメッセージだったと思います。大変な都知事のリーダーシップ、とても心強く感動いたしました。次に他の参加者の方からコメントをいただきたいと思います。

まずイダルゴ市長はこのサステナブル・リカバリーというものがグリーンであり、公平であり、社会文化的にサステナブルなリカバリーでなければいけないと再定義されています。この 3 つの柱というのは具体的に、市長がパリにおいて行っている具体的な政策にはどのような形で反映されているのでしょうか。

(イダルゴ・パリ市長)



ありがとうございます。私たちは広範囲なアクションをパリにおいて取っています。

まず、パリは未来の世代を教育研修するためのステップを取りました。この一年以上ものコロナ禍において、若い人たちは行動を取って答えを出していかなければなりません。これこそがクライメートアカデミーが持つ意味です。

9月から始めるものですが、これは私たちの施策を象徴するものです。こちらは子供たち、若い人たちにエコロジカルな教育をしていくということです。学校において必要なツールを獲得して違う考え方、行動をとっていけるようにしていくということです。学校においてこれから今までの経済モデルとは違う形で考えていくということ、そしてこのクライメートアカデミーは若い人たちが新たに雇用労働市場に入ってきて、エコロジカルなことに對して貢献することができるようにしていくということです。

この教育、特にエコロジカルな変革をしていくにあたっての問題は、私たちがこの大変な時を克服していくためにどのようなことをしていくかということです。

もう一つ例としてありますのが、戦略的な都市計画というものです。これはこの好機に対処するため私たちが実施しているものです。自転車のレーンを設けることによって自転車を使うこと、こちらはパンデミックのためだけではなく、大気汚染を減らすためということでもあります。先月、既存の1,000キロの自転車レーンにさらに50キロを加えました。

パリの中央部において使われている自転車の数はこの5年間で1日あたり2万台と数倍になりました。またパリの自転車の数は運転する人の数と同じ数になりました。このパリにおける変革というのは、自転車レーンを付け加えていくことで都市のハイウェイを都会のグリーン大通りに変えていくということです。

このパリにおけるグリーン・リカバリーというのは5,000のソーシャルハウジングユニットを毎年加えていくことによって燃料の貧困を克服していくということでもあります。ですので、私たちはソーシャルハウジング（公営住宅）に重きを置いています。また、パリは新しい都市の生活様式というものを作り上げています。

ここで話したいのはフィフティーンミニットシティ、15分の都市です。これは新しい考え方、都市において近接性を求めるというものです。私たちの生活を新たな地理的なスケールにおいて再定義し、現実性、また一体感そして居住地あるいはデモクラシーに対してより近くなるということです。学校は新しいソーシャル化するためのスペースとして提供されていきます。また学校の前の道を使って汚染を軽減して子供達を守るという目的に使っていきます。

この間さまざまなイベントが行われていきます。若い人たちが気候変動に對していくために生活様式を変えていくということ、私たちがこの大陸のイニシアチブを取っていくわけですが、私はパリにおいてこの行動をリードしています。

(モデレーター・石井氏)

イダルゴ市長ありがとうございます。本当にインスピレーションを感じるアイデアをご紹介いただきましてありがとうございます。クライメートアカデミーを通じて将来世代をサポートされるということ、あと15分都市、自転車を中心としたその環境。素晴らしいビジョンだと思います。また素晴らしい勇敢な取組だと思います。

次はタン大使にお願いしたいと思います。サステナビリティはシンガポールにとって常に DNA の一部であったということですが、またグリーンプランにおきましては、改めてサステナビリティがシンガポールの成長エンジンに据えられているということでした。では具体的にどのようなアイデアの実施策を講じていらっしゃるのかをお願いします。

(タン・駐日シンガポール共和国大使)



ありがとうございます。では私の方からシンガポールが何をやっているのか具体的な措置について紹介します。サステナブル・リカバリーを達成するためにということですが、先程お話をしましたが、まずシンガポールはガーデンシティ計画から始めました。

今では自然の中の都市を目指しています。私たちのグリーンプランの最初の柱になりまして、私たちの環境に緑を使用し、私たちの人々全体に自然を拡張することによって、カーボンシンク（炭素吸収源）を創り出す。そのために都市全体に自然をもたらそうということです。

主要なターゲットというのは、1,000ヘクタールの緑地を追加することです。100万本の木をシンガポール全体に植えまして、そして7万8千トンのCO2を削減しようとして取り組んでいます。

そして2つ目の柱というのが、サステナブルな生活となります。これは資源であったり、エネルギーの使用量を節約する、これをシンガポールの新しい生活スタイルとしたいと思っています。

これを達成するためには市民の方々にも消費、そして廃棄物を減らしていく必要があります。この廃棄物を減らしていくという私たちの目標は2026年までに20%埋立地に送られる廃棄物を減らすということ、そして2030年までに大量公共交通機関の比率を75%まで高めるということになります。

そして3つ目の柱がエネルギーリセット。これはエネルギー供給をより緑化するグリーンにすることです。

これはサステナブルな住宅、環境に優しいエネルギー効率の高い車両を導入すること、そしてインフラを緑化することです。我々2030年に80・80・80ゴールを設定しています。これはあらゆる建物のうち80%。そしてあらゆる開発や案件の80%は超低エネルギー使用の建物とし、結果としてエネルギー効率を80%改善しようというもの。80・80・80の取組です。こういったゴールというのは、東京都の取組に似ているというふうに思います。

またはカーボンフットプリントを様々なセクターで削減していくということ。そのためにエネルギー使用量を年間で毎時800メガワット減らしていきます。これだけエネルギーを減らすということは、2030年にはあらゆる住宅の年間のエネルギー使用量に相当することになります。国内の温暖化ガスの排出量を年間2030年までに300万トン減らしていこうと考えております。

第4の柱というのはサステナビリティを新しい成長エンジンに据え、雇用創出を達成していくということです。また企業がサステナブルな観光を受け入れるということを下支えしていこうと考えています。シンガポールをサステナブルな観光地とし、またカーボントレーディングの中核としてシンガポールを据えたいと思っています。

またグリーン・ファイナンスを促進していこうと考えております。今年5月には140億ドル規模のグリーンボンドの発行を発表しました。これはインフラプロジェクトに使う資金となります。

第5の柱が強靱な将来ということで、テクノロジー・科学・デジタルを使うことで、気候に対する強靱性を作っていきます。そうすることで我々は海水面の上昇に対応していきまして、シンガポールを涼しい場所としていこうと考えています。気候変動に対応する取組は次の世紀にも続くことになると考えています。我々は今、将来のための準備を行っています。

あとは文化について触れたいと思います。シンガポールの文化の特徴は、多人種・多民族・多文化の社会であるということです。シンガポールには様々な民族宗教が共生しています。多様な食事や祭りもあります。まさに文化のるつぼです。しかし、我々は平和そして協調、ハーモニーを当然視してはいけません。常に取り組み続けていかなければなりません。シンガポール政府としてはこういったところに注意しています。我々はこれまでに人種対立の破壊な影響を目の当たりにしてきたからです。

最後に波乱の時代をどう生き抜いていくのかということですが、我々はお互いから学び、シンガポールは他国からも学び、未知の領域を切り開いていこうと思っております。また優先順位付けを行って、サステナブルなゴールを達成したいと思っております。

そして、政府、消費者そして企業が様々なコストを負担していく必要があります。例えばサービス商品のコストの変化や生産コストのアップあるいはリソースを新しいソリューションに割り当てて行くということ、また新しいインフラへの投資を行っていくということをしなければなりません。適切な選択肢を決めていかないとはいけません。

都市国家として、こういった我々の現実を直視していく必要があります。私たちはトレードオフを行い、変革を行っていく。そうしないと我々は今後何倍も大きなコストを負担することになるからです。

(モデレーター・石井氏)

タン大使ありがとうございます。特に具体的におっしゃったサステナブル・リカバリーを達成するためのコストとトレードオフ、そして世界的な影響を考えて市民との間で率直な話し合いが必要だということに感銘を受けました。

次にロサンゼルス市のガルセッティ市長に、ビジョンを実現するために具体的にどういった対策をとっているかということをお聞きしたいと思います。

(ガルセッティ・ロサンゼルス市長)



ありがとうございます。小池都知事、バスケットのスコアを教えてください、ありがとうございます。さっきまで観戦していました。また明日、日本とアメリカの女子バスケットチームが決勝に出られるということで嬉しく思っています。この場にいられることを嬉しく思います。また市長の方々、大使の方大変感動いたしました。

私たちロサンゼルスがやっている事を共有したいと思います。ロサンゼルスは今までに無いような状況になっています。国・政府が一生懸命取り組んでいることは承知していますが、都市が政府をリードしていくべきです。我々都市は C40 等の様々な組織を先導し、協力していくべきです。

ロサンゼルスの取組について紹介します。経済的なポリシーそして環境に対しても良いポリシーを取って行こうとしています。ロサンゼルスにおいては、どちらかが欠けてもダメというような状況です。どちらか欠けてしまったらもう一方が置き去りになってしまうということです。エミッションを 11%減らす。そして失業も 14%減らすことができました。83,000 の雇用を創出している状況です。

ロサンゼルスは5つのゼロに取り組んでいます。ゼロカーボンビル、ゼロカーボンのトランスポーターション、ゼロエミッションのトランスポーターション、廃棄ゼロ、そして廃水ゼロです。特に重要なのは最後のものです。干ばつというのが大きな問題としてありますので、リサイクルを重要視しています。

またソーラーシステムに関しても日本の企業と協同して15の高速鉄道を整備しています。そしてオリンピックのある2028年までは28のプロジェクトがあります。こちらのプロジェクトによって、イダルゴ市長も話していた15分都市を可能にしていきたいと思います。私たちはパンデミックの間に自転車専用レーンを40キロメートル延長しました。また水素についてですけれども、できるだけゼロエミッションの燃料を使っていきます。

また、これを気候や若者と結び付け、若者が恩恵を受けることができるようにすることも検討しています。私たちはオリンピック・パラリンピックの主催者として、IOCから1億6千万ドルを受け取ったことをとても誇りに思っています。オリンピックに先立って、これまで資金が上手く投じることができなかったアフリカ系アメリカ人やラテンアメリカ出身の子供たちの教育、若者のスポーツ拡大のためにも使っていきたいと思います。ですから私たち社会的な正義、経済的な機会を与えることによって、できるだけのことをしていきたいと思っています。

またハウジングに関しても現状11,000のユニットを支援していくことによってホームレスの人々を支援するというのもこれから3年間でやっていきたいと思っています。ですから私たちは具体的に100%再生エネルギーですとか、100%ゼロエミッションのトランスポーターション、ゼロエミッションのバスなどを達成していく。あるいは若い人達に食を提供していく。オリンピック・パラリンピックによって様々な恩恵がもたらされることになるかと思っています。

小池都知事ありがとうございました。素晴らしいリーダーシップそして今日の会議を主催して下さいましてありがとうございました。またイダルゴ市長、またパリ大会に行くのを楽しみにしています。

(モデレーター・石井氏)

ガルセッティ市長ありがとうございます。まさに都市が大きな役割を果たして世界的な課題に対応すべきだというふうに私も思います。パンデミック、社会の分断、環境全てに対応していかないとはいけませんね。市民に近いので都市が変革をもたらしていく、その為に市長が協力していくことが本当に重要だと思います。そして初めて課題に対応できるのだと思います。

そして次はシュリナー・ブリスベン市長です。先ほどタスクフォースを立ち上げて経済の回復そして環境文化をサポートされるとおっしゃっていました。また協働を様々なステークホルダーの間で促進してことが重要であるとのことでしたが、具体的なビジョンの達成方法について教えていただけませんか。

(シュリナー・ブリスベン市長)



先ほどもお話をしましたが、我々はやはり習慣を変えていこうと思っています。人々が習慣を変えていく、都市が習慣を変えていくことで大きな変化をもたらせると思っています。

ブリスベン市で我々がフォーカスしておりますのが良い方向に習慣を変えていくということです。我々は都市として、その密度の低い広い分野に広がった都市だったわけで自動車社会だったわけです。ですから、今やっておりますのがその習慣を変えていき、そして公共交通機関の利用を促進し、自転車や徒歩を促進するということです。

後ろの背景の橋、これは都市として数か月後に建設を着工する新しい橋です。新しい橋の建設を今計画しています。サイクリストと歩行者のみのための橋となります。ブリスベンの川を越える移動手段になります。非常に広い川になりますので、この輸送ネットワークはこの川をどう越えられるのかということが重要になります。

サイクリストや電動スクーター、歩行者がこの川を渡ることができれば、より持続可能な輸送シ

システムを作れると考えています。あとは投資を通じまして、バスと鉄道のアップグレードに取り組んでおります。2032年のオリンピックよりも前に準備が整う予定ですが、そのプロジェクトを前倒しして達成していきたいと思っております。

オリンピックだけではなく持続可能な環境経済を作っていきたいと思っております。

さらにプログラムとしまして、グリーンでサステナブルな建物の開発に取り組んでいます。シンガポールの取組にインスピレーションを受けているのですが、ブリスベンというのは亜熱帯の気候になります。どういうことかと言いますと、ガーデンシティには合うわけです、シンガポールと同じですね。ですから我々新しいインセンティブを導入しました。

建物の設計をサステナブルにすると、CO2を減らすということだけではなく、建物の緑化を進める、木を植えたり屋上緑化を行ったりコミュニティエリアを作ったりするわけです。これはシンガポールと同じですね。我々もそのような取組を市として新しいインセンティブを通じまして、そのような開発を今後も促進していきます。

ほかにも、コロナ禍で市民は緑化公園を重視しています。後ろ（画面背景）にも緑化公園がありますけども、ブリスベンの中心にゴルフコースがあり、これを今後最大の公園に変えていきます。

このゴルフコースはもう閉鎖しましたので、これを大きな公園に造り変えていく取組を進めています。これは自然を都市にもたらそうという取組の下、行っております。そうすることで森林緑化地域の割合を拡大すると、コアラが我々のアイコン的な動物ですが、開発の脅威に直面しているコアラを守っていこうというテーマもあります。これは継続的なプログラムであります。

他にもブリスベン市の市議会はカーボンニュートラルの取組を組織的に行っております。連邦政府、州政府、後は地方政府という様々な種類で組織があるわけですが、オーストラリアはすべてのレベルでブリスベンの市議会の最大のカーボンニュートラルの組織でありまして、本当に誇りに思っています。

2032年に向けまして、カーボンポジティブ、カーボンフットプリントを削減していきたいと思っております。同時にカーボンオフセットを改善するために植林を進めていきたいと思っております。またガルセッティ市長がおっしゃった通り、経済的な成長は分けて考えていません。環境、サステナビリティな課題を経済の成長と一緒に捉えております。両方取り組んでいきます。ですので、各都市の取組を紹介いただきましてありがとうございます。

我々も市長、そして都市のリーダーとしまして、継続的にサステナビリティな取組を環境文化の観点からリードしていきたいと思っております。

<全体総括（モデレーターによるまとめ）>

（モデレーター・石井氏）

シュリナー市長ありがとうございました。

経済的な成長が社会的な、あるいは文化的な環境のサステナビリティとともに進められているものということをお教えました。ありがとうございました。

今日は直接市長の方々からお話をいただきました。サステナブル・リカバリーのコンセプト、これは経済成長あるいは環境を超えてさらに進めていくもの、そしてサステナブルな生活を求めていくということでお話いただきました。私は皆様が社会情勢の変化に柔軟に対応しつつ難しい状況にある多様なコミュニティと協力しながら市民と企業を支援するという都市計画を作ることに奮闘されていることに敬意を表します。すべての都市はそれぞれ異なった状況にあります。ですので、市長に共通するものとしてはパッション、情熱そしてコミットメントこれからより明るい未来をもたらすためにということかと思えます。

小池都知事に東京宣言の発表をお願いしたいと思います。

今日のディスカッションを受けた発表になります。

<知事による締めくくり、『東京宣言』の発表>

（小池都知事）



石井さん、ありがとうございます。

本日は、皆様から、コロナ禍を乗り越え、「サステナブル・リカバリー」に向けて行動する強い決意を伺い、大変勇気づけられました。改めて感謝申し上げます。

また、本日の会議を開催するに当たり、モデレーターを務めていただいた石井さんにも厚く御礼申し上げます。

地球規模の課題に対し、都市が果たす役割が重要であることを改めて認識しました。今こそ、行動する時。我々都市が、国に先んじて実効的な対策を行動に移し、世界の取組を先導していきましょう。

スポーツで世界が一つになったこの大会を契機として、私たち都市の連携の輪をさらに広げ、一緒に取組を加速させていきたい、このように考え、この会議での共通の認識を「東京宣言」として取りまとめ、世界に広く発信します。

（「東京宣言」発表・読み上げ）

本会議は「サステナブル・リカバリー」を世界の皆様とともに歩む出発点として、本日ご参加いただいた皆様とも連携しながら、各都市の知見や取組を共有する新たな国際ネットワークを立ち上げていきたいと考えています。



ご参加いただきまして本当にありがとうございます。エリックさん（ロサンゼルス市長）ありがとうございます。時差があるにも関わらずご参加いただきまして感謝しています。エイドリアン・シュリナー・ブリスベン市長、壁紙（背景）が素晴らしかったですね。都市の計画が本当にクリアに理解できました。ダカールのワルディーニ市長、アフリカからご参加いただきありがとうございました。またタン駐日シンガポール大使、このような会議にいつもご参加いただき本当にありがとうございます。



それからアンヌさん（パリ市長）、今日は私と一緒にご参加いただきましてありがとうございます。明日の閉会式ではハンドオーバーの引き継ぎをします。きれいにできるように後で練習しましょう。

本日はありがとうございました。

（モデレーター・石井氏）

小池知事ありがとうございます。

これにて今回は閉会いたします。パネリストの皆様、世界各地からご参加いただき、また積極的にご参加いただきましてありがとうございます。皆様、本当にありがとうございました。

「サステナブル・リカバリー東京宣言」全文

Tokyo Declaration on Sustainable Recovery

「サステナブル・リカバリー東京宣言」(仮訳)

- ・2021年夏、私たちは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えた。
- ・東京は、東京2020大会のビジョンとして「多様性と調和」、「未来への継承」などを掲げるとともに、世界で初めて二回目の夏季パラリンピックを開催する都市として、真の共生社会の実現を目指してきた。また、環境に配慮した持続可能な大会の実現や芸術・文化の発信など、様々な分野で価値あるレガシーを見据えた取組を展開してきた。
- ・世界が地球規模の課題に直面するなか、私たち都市には、その解決に向けて、市民や企業、NPOなど多様な主体との共感と協働のもと、具体的かつ積極的に役割を果たしていくことが一層求められている。
- ・コロナ禍からの復興は、コロナ以前の社会に戻るのではなく、コロナによる人々の価値観や社会の変化に柔軟に対応しながら、多様性と包摂性に溢れた、強靱で持続可能な社会を実現する機会である。
- ・人類の未来を脅かす気候危機への対処も忘れてはならない。今こそ、行動を加速する時。「TIME TO ACT」の言葉どおり、気候危機に直ちに立ち向かう必要がある。
- ・また、芸術文化は、都市の魅力を形成する要素となるだけでなく、人々の心を支え、活力や感動、新たな価値の発見を生み出す重要な要素であることが再認識された。私たちは文化の灯を絶やさないという思いを共有し、世界中の文化の灯を再び力強く輝かせていく。
- ・以上を踏まえ、私たちは、明るい未来を切り拓き、豊かな地球を次代へ引き継ぐべく、環境、経済、文化、スポーツ、人権、人々や企業の意識・行動様式など、社会全体に係る様々な側面で人々の持続可能な生活の実現を目指す「サステナブル・リカバリー」に取り組み、これを大きな輪として世界に広げていくことを、ここに宣言する。

賛同都市

東京 ブリスベン ダカール ロサンゼルス パリ

記念撮影



(左からミライトワ、アンヌ・イダルゴ パリ市長、小池百合子東京都知事、
モデレーター・石井菜穂子氏、ソメイティ)

(画面内： 左上エリック・ガルセッティ ロサンゼルス市長
右上エイドリアン・シュリナー ブリスベン市長
左下ソハム・エル・ワルディーニ ダカール市長
右下ピーター・タン・ハイ・チュアン駐日シンガポール共和国大使)

会議当日の様子



開会



モデレーターによる進行



オンライン登壇者



ワルディーニ市長のビデオメッセージ



「東京宣言」の発表



参加者間での会話